



氣田 量子
(自民公明クラブ)

道路異状の通報

スマホアプリやメールで ホームページ内に 投稿コーナーを検討

議員 道路異状に関する市民からの通報手段として、スマートフォンアプリやメールを導入してほしい。

ことから、当面は他市を参考に情報提供に関するコーナーをホームページ内に作成することを検討したいと考えています。

とと考えているため今後進めていきたいと思えます。

市長 アプリを導入するためには新たなシステムの構築と多額の費用がかかります。また、当市では現在、東北電力や各宅配会社等と協定を結び、道路監視カメラとしてさまざまな道路情報をいただいています。この

議員 教職員の働き方改革への対応として、学習情報等を容易に引用、管理できる校務支援システムを導入しては。

教育長 利便性は認識していますが、多額の費用が見込まれる上に導入による実質効果の検証の必要性や学校情報のセキュリティ確保などの課題もあります。今後、県の動向を見据えながら調査研究したいと考えています。

議員 長時間労働縮減の指針を作成しては。
教育部長 現在は作成していませんが、必要な

こと

議員 発達障がい等の児童生徒がふえているので、学習指導等を支援する特別支援教育支援員を増員しては。
教育部長 今後とも学校と連携を図りながら、学校の状況や支援の必要な児童生徒の様子等を的確に把握し、適切な配置に努めていきます。

議員 行事など人の出入りが多い町内会の集會施設等にはAEDが必要との声がある。設置補助の考えは。
民生部長 これまで町内会要望等が出されたことがないので、現在のところ考えていません。

こと

発達障がい児の 受け入れ体制の整備を 関係機関と連携しながら 各施策を展開したい



櫻田 百合子
(市民連合クラブ)

健康福祉部長 これまでの幼児健診の事後指導に加え、今後はあらたに心理判定員等を活用し、言葉や精神発達面の指導や相談支援の実施に向けて、場所も含め検討していきたいと考えています。



受け入れ困難な状況が続いている

チェックをもとに保護者が保育士に相談したり、保育所が子供の発達状況を保護者と一緒に確認したりすることが、五歳児相談につながっていると認識しています。保護者が子供の発達障がいに対する気づきにつなげる目的で実施しているため、今後も継続していきたいと考えています。

議員 発達障がい児等の保護者を支援するペアレント・プログラムの必要性や人材育成、普及への認識は。
健康福祉部長 厚労省の検討会で、家族支援の充実を図るためにはペアレント・プログラム等の具体的な支援方法を用いる必要があるとの報告がされたことは認識しています。実施に当たっては、人材育成や普及については、今後市内保育所等からの情報をもとに調査研究したいと考えています。

議員 発達障がいの疑いのある子供がふえているが、当市の受け入れ施設は三本木小学校特別支援教育センターだけである。本来は児童の指導が行われる施設であるため、幼児の新規通級指導が出来ない状況だ。空き施設の活用など早急に幼児の受け入れ体制を講じては。
健康福祉部長 今年度から五歳児セルフチェックを活用した五歳児相談を実施しています。セルフ

こと

こと

※育児に不安がある等の悩みをもつ保護者などを、地域の支援者が効果的に支援できるように設定されたグループプログラム